

“自由”をマインドマッピング



講師
森田正康

profile

1976年、愛知県生まれ。株式会社ヒトメディア代表取締役社長兼CEO。12歳から渡米し、UCバークレー、ハーバード、ケンブリッジなど海外の大学・大学院を渡り歩く。ハーバード大学教育学修士、ケンブリッジ大学哲学修士。25歳で日本に帰国し、語学系出版社の第2次創業メンバーとして取締役に就任。206年にJASDAQ上場を果たした後、株式会社ヒトメディアを創業。

学生時代の多くを“自由の国”アメリカで過ごし、イギリス、日本の最高学府を渡り歩いた森田さんに聞く“自由”について。経営者としての視点も垣間見えるよ。

Text: 樋口善子



「必ずしも

自由=その瞬間自由である必要はない。」

皆さんはいつ、自由になりたいですか？ 日々自由になりたいって？—好きなことをやる時間を仮に自由とする、とすれば、分け方はいろいろ人によります。1週間を平日の5日と休日の自由な2日と分けるか、1日だったら、仕事が終わった後、寝る時間までの6時間が自由とか。35年間死ぬほど働いて250億円稼いで、そのあとの余生を自由に謳歌するという考え方もあります。要は、自分の人生をどのくらいの尺度でみるか。設計図をどのくらいの規模感で見るとかによって変わるんです。

「自分を好きじゃないと自由にはなれない。」

はたから見たら、すごい学校に入ったな、と言われるかもしれない。でも、常に僕は、その学校の中でも最下位を歩いています。よく生き延びたな、と。入ったことが自信ではなく、よく生きてきたな、と。ハーバードでは劣等感を学びました。だから、自分の世界の中で、自分は一等賞だと思わないとやってられないのもあって。天才だと思っておきながら、自分は最低だと思っています。実は、すさまじいバランスの中、矛盾しながら生きています。自分とずっと一緒にいるのは自分しかない。そんな自分を好きになれなきゃどうしたらいいの？もう、死ぬしかないじゃない。せめて自分が好きじゃないと、この先困るじゃない。

「自由の裏側は常識に縛られていること。」

非常識になれてことではないですけど、赤信号って渡るべき時ってありますよね。と田舎で、田んぼしかなくて、車なんて全然通らなくて、人も通らなくて、でもお母さん事故で死にそう、急いで病院に行かなきゃ！ と、そんな時に青になるまで待ちますか？ 常識は“待つ”なんだけど、そこを自分の意志で「渡るべきだ」と思えることが、ある意味自由というか、意志じゃないですか。その意志を持つから、自由を実感できると僕は思います。世の中って変化していくから、捨てるべき常識は絶対あるんだと思う。守らなくてもいい常識に、自分が縛られていることによって不幸だったり不自由だったり。どの常識は捨てるのかを考えて、その結果、自由を手に入れることができるかもしれませんよ。



『ぜんぜん気にしない技術』クロスメディア・パブリッシング ¥1,280 (税別)

自由を求めてきたまよう子羊

「ぜんぜん気にしない技術」著者森田流の思考、言わなきゃ何もしゃべらなかつた」というアメリカでの経験が元になり、常にアウトプットし、結果を残すことになってきた。結果にこだわります。自分は自由

だと思いつつ続けているのは、この自由なスタイルでいいんだ、僕の自由は間違っていないんだ、自分自身を許せる結果を残してきているから、僕が自由であることが、会社の成長につながっているって確信しているし信じているから、この自由な生き方を維持していく。自由と結果を残すことには一体どんな関係があるのか。森田氏の頭をのぞいてみよう。

「さぼっちゃおうかなって思える心の余裕。」

自由を感じられる時って、他の人とは違うことを自分の意志でやっている時かもしれません。ある意味自由の定義って、「ちょっととルールから外れてみて、非常識さを楽しむ」ことなのかも。ハメを外すことは違うけど、ちょっとしたいたづら心を持ってほしいな。

「Be Free」

僕の会社の経営理念の8つ目にBe Freeという言葉があります。僕はこれがすべてだと思っている。自由に仕事をする。でも、そのためには、実績を持って、競争力がなくて。結局、実力のないやつは自由になれないよね。極論、会社なんか来なくていい。好きにしろ。自由であれ。でも、それをしたいんだら、力を持ちなさいよね。

あとかたづけなんて、わけないじゃないか。小川の中で、おさらをくるくるとまわして、手をあらって、手をふいた青い葉っぱを—まい、ぼいとすてればいいんだ。なんでもないことだ。

『ムーミン童話全集⑧ ムーミン谷の十一月』P108

それはいいテントだが、人間は、ものに執着せぬようにしなきゃ。すててしまえよ。小さなバンケーキ焼きの道具も。ぼくたちには、用のなくなった道具だもの。

『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』P101

たいせつなのは、自分のしたいことを、自分で知ってるってことだよ。

『ムーミン童話全集④ ムーミン谷の夏まつり』P118

なんでも自分のものにして、もって帰ろうとすると、むずかしいものなんだよ。ぼくは、見るだけにしてるんだ。そして、たちさるときには、それを頭の中へしまっておくのだ。ぼくはそれで、かばんをもち歩くよりも、ずっと楽しいね。

『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』P61

ぼくたちは、本能にしたがって歩くのがいいんだ。ぼくは、じしゃくなんか信用したことがないね。じしゃくは、方角にたいする人間の自然な感覚を、くるわせるだけさ。

『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』P112

“そのうち”なんて当てにならないな いまがその時さ

『ムーミン・コミックス 第1巻 黄金のしっぽ』P2

たまには休むのもひとつの仕事じゃない？

『ムーミン・コミックス 第2巻 あこがれの遠い土地』P28

出典一覧
『ムーミン・コミックス 第1巻 黄金のしっぽ』2000年 トーベ・ヤンソン/ラルス・ヤンソン著 富原真弓訳 (筑摩書房)
『ムーミン・コミックス 第2巻 あこがれの遠い土地』2000年 トーベ・ヤンソン/ラルス・ヤンソン著 富原真弓訳 (筑摩書房)
『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』1990年 トーベ・ヤンソン著 下村隆一訳 (講談社)
『ムーミン童話全集④ ムーミン谷の夏まつり』1990年 トーベ・ヤンソン著 下村隆一訳 (講談社)
『ムーミン童話全集⑧ ムーミン谷の十一月』1990年 トーベ・ヤンソン著 鈴木徹郎訳 (講談社)

参考文献
『ムーミン童話の百科事典』1996年 高橋静男「ムーミンゼミ」渡部翠編 (講談社)

(楽しみが仕事になると感動するムーミンに対して) というより 仕事を手にいれて 楽しみを失うという 意味じゃないかな? 『ムーミン・コミックス 第2巻 あこがれの遠い土地』25頁 (ねえ、義務ってなんのこと? と聞くムーミン・コントロールに対して) したくないことをすることさ 太陽の光をあびて 寝そべりながら 草花の匂いをかいでいるのは 義務に忠実とはいえないのさ 『ムーミン・コミックス 第2巻 あこがれの遠い土地』9頁

講師
スナフキン

profile

スウェーデン語で Snusmumriken。Sunsはぎタバコ、mumrikは夢を込めた「あいつ、野郎」という意味。英訳名で Snafkinになり、そこから取ったのがスナフキン。

もちものをふやすというのは、ほんとおそろしいことですね。

『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』P139

自分で、きれいだと思うものは、なんでもぼくのものさ。その気になれば、世界じゅうでもな。

『ムーミン童話全集① ムーミン谷の彗星』P58

自由と孤独、音楽を愛する旅人
自由を生きる
自由に生きる

さあ、みんな。きらくにおやり! すきな場所へ行っていいんだよ!

『ムーミン童話全集④ ムーミン谷の夏まつり』P129

ひとり気ままなテント暮らし。秋になると南に向かって旅に出て、春になるとムーミン谷に戻ってくる。そう、彼の名はスナフキン。何よりも自由を大切にしよう。嫌いなものは看板や立て札。みんながしたい楽しいことを禁止しているから。自由の素晴らしさを知る彼は、自由に生きられなくなっている人を見たと気になる自分からしたいことに気づくようにうまくむけ。最後にはそうと手を差し伸べる。さあ、彼の言葉に耳を傾けてみよう。
Text: 遠藤由次郎